



# グリーンパワー しばた

## 渡辺よしお通信 第2号

### 6月議会報告

第2号 2007年8月 発行  
発行：新発田市議会議員 渡辺よしお  
連絡先：新発田市西名柄（下名柄）3129  
電話：22-6724 FAX：22-6730

\*所属常任委員会 産業経済委員会（副委員長） \*所属特別委員会 議員定数に関する調査

6月定例会は6月7日から27日の会期でした。一般質問第1日目に登壇。議員として初質問を致しました。また、本会議最終日の27日には、1件の意見書を提出。全議員賛成で可決し、提出先の内閣総理大臣始め関係大臣に送付しました。（裏面に意見書を掲載）

### 6月議会での私の一般質問（要旨）

#### ★食育教育の取り組みについて

〔質問〕「食と緑の新発田っ子プラン」で、市内、小中学校が食育教育を取り入れるが、子供たちに教える立場の教職員が実践するにあたり、どの程度の知識が必要なのか、また指導者研修並びに指導計画はどのようなになっているのか。  
関連して、「食と農」「食と命」についての教育展開の推進についての考えは？

〔教育長〕本年度は食育教育のモデル校として本丸中学校、佐々木小学校、東豊小学校が先行実施。また市内小中学校の教職員でプロジェクトを立ち上げ「食育推進手引書」を作成予定。教職員には、視察などを含めた研修を実施します。  
「食と農」「食と命」の教育展開は、学校給食に多くの地元農産物を取り入れることにより、生産者も保護者、児童生徒も郷土に愛着と、誇りを持つ情操教育を推進します。食物を通して命の大切さ、はかなさを学び、それを、いじめ対策、人権教育、同和教育においても「食と農」「食と命」についての教育展開をしたい。

#### ★新農業政策のもと小規模農家や中山間地域の農家、農村対策と猿被害の現状と対策について

〔質問〕今年からスタートした担い手育成型の国の農業政策ですが、現実には農地の半分以上は担い手要件に満たない小規模農家による経営である。特に条件不利地の中山間地域においては、耕作放棄地も増えており弱者切り捨てとしない農地保全対策をどのように考えているのか  
また、中山間地域における猿被害が拡大してきております。被害を受けている地域住民の苦悩の声が長い間、反映されず、対処療法的な追い払いの対応のみである。  
年々、日本猿の繁殖数も増えております。  
今後の新発田市を含めた関係機関と連携した対応と対策はどのようなになっているのか

〔市長〕小規模農家でも消費者ニーズを見据えた、特徴ある経営を行う農業者も重要な担い手と捉え支援をしていきます。  
中山間地域対策は直接支払制度の活用で、農地の多面的機能の向上に向け、住民と共に話し合いを通して今後とも支援をしていきたい。  
猿被害については、毎年1千万円以上の農作物被害があります。  
今まで国、県の補助事業で監視装置や追い払いの支援を行ってきた。  
「モンキードッグ事業」の導入で今後、訓練犬による追い払いの成果に期待をしている。